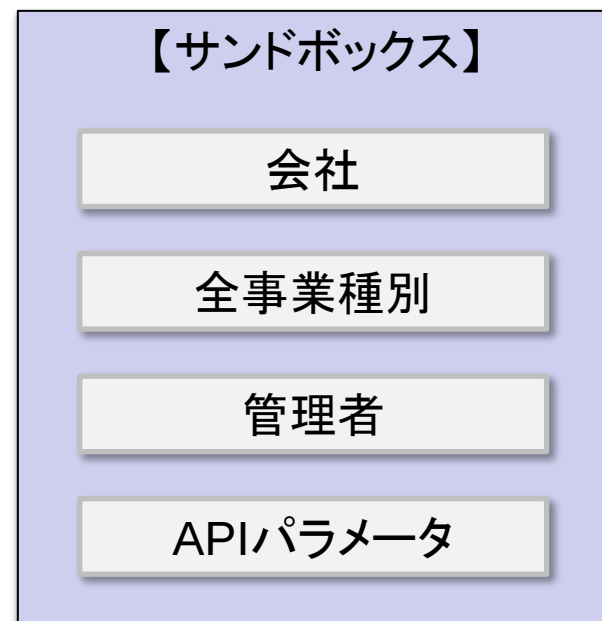
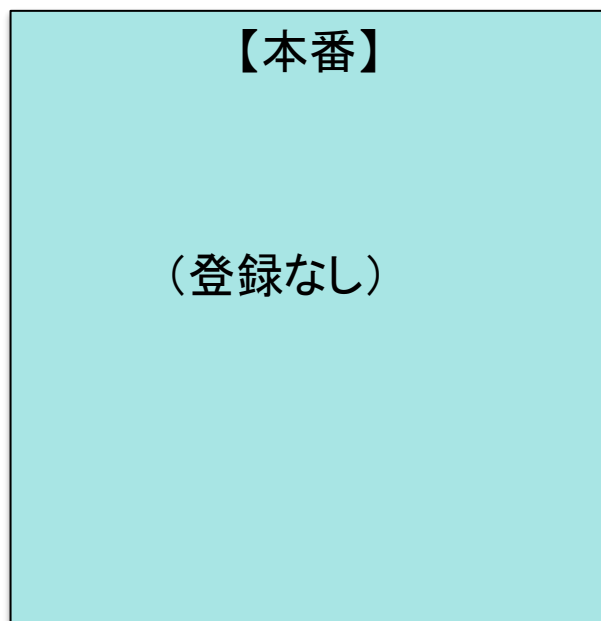


システムベンダーの登録内容の運用変更

サイバーポート運営

- 現状の運用では、利用申請時に事業種別「システムベンダー」の場合、サンドボックス環境のみ登録している。
- テストデータ作成等の理由により、サンドボックス環境ではすべての事業種別を登録している。

＜システムベンダーの登録内容＞



- APIの認証及びAPI呼出は以下のステップとなる。

ステップ		内容	必要な情報 (特に事業者ごとに異なる部分)
1	認証① OpenID認証	ユーザーの認証	ステップ3の マスタチェック対象 - 利用者ID(メールアドレス) - パスワード - アプリケーションID
2	認証② クライアント認証	連携するシステムの認証	- クライアントID - クライアントシークレット
3	API呼出 (取引作成、帳票更新など)	権限チェック (取引参加組織／ユーザーの組織 所属)	- 認証①②のトークン - 組織ID(organizationId) - 事業種別(businessTypeId)

以下は利用申請時にAPI利用「あり」とする必要あり。

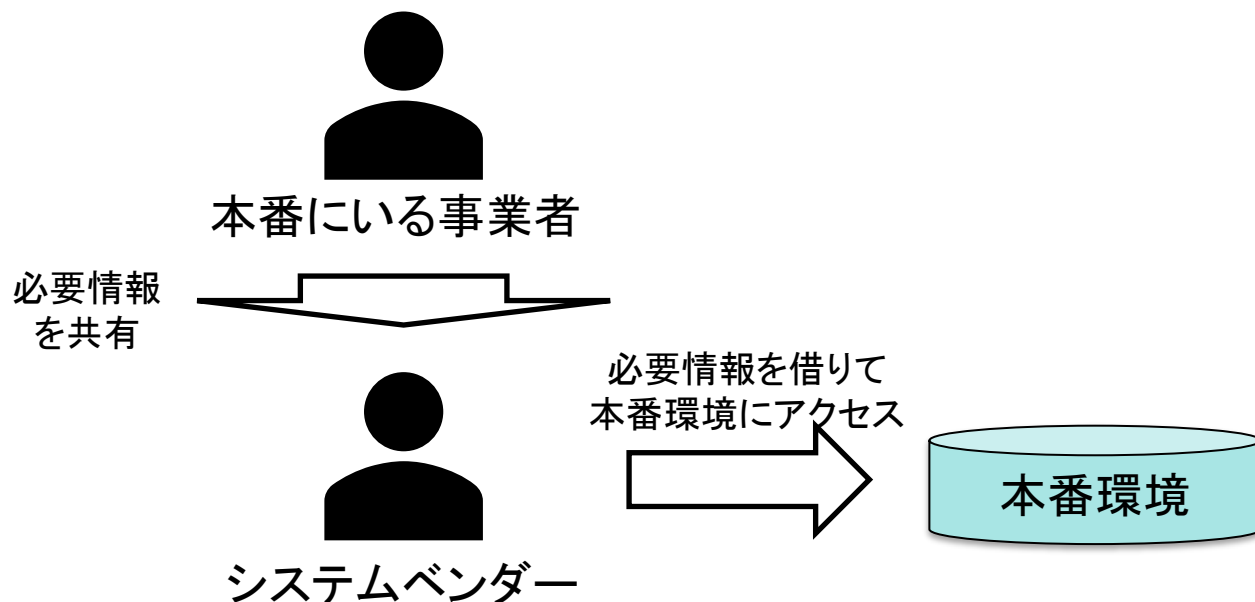
- アプリケーションID
- クライアントID
- クライアントシークレット

- 各ステップで必要な情報は、「本番環境にいる事業者」の情報を用いる。(＝本番環境にいる事業者から必要情報を取得する)

ステップ		必要な情報 (特に事業者ごとに異なる部分)	誰の情報か
1	認証① OpenID認証	- 利用者ID(メールアドレス) - パスワード - アプリケーションID	「本番環境にいる事業者」の情報
2	認証② クライアント認証	- クライアントID - クライアントシークレット	
3	API呼出 (取引作成、帳票更新など)	- 認証①②のトークン - 組織ID(organizationId) - 事業種別(businessTypeId)	

現状の運用における課題

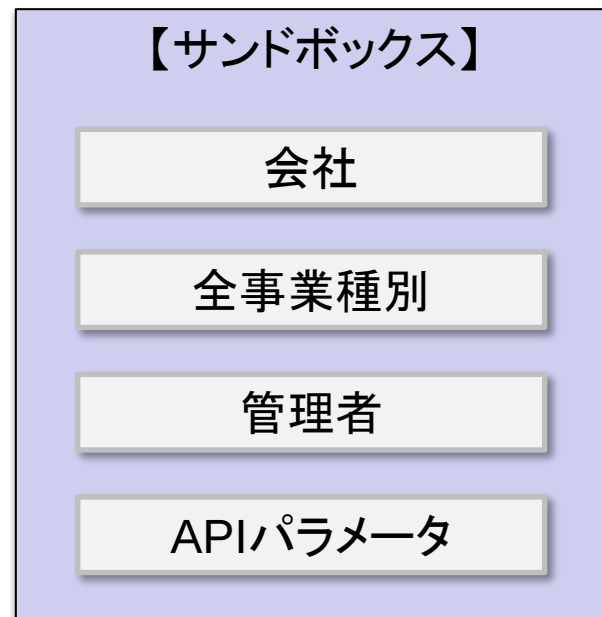
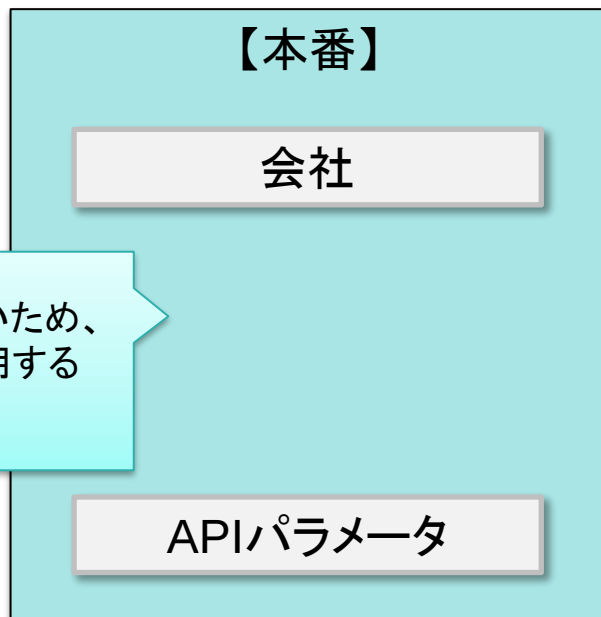
- システムベンダーは本番環境の情報がないため、「本番環境にいる事業者」から必要な情報を取得する必要がある。
- 特に、クライアントID・クライアントシークレットは利用申請時にAPI利用「あり」にしていなければ取得できないため、変更申請が伴う場合もあり。
⇒ 情報取得する仕組み作りなど、**必要情報を取得することが手間。**



課題に対する対応

- システムベンダーには、本番環境の会社・APIパラメータ(アプリケーションID、クライアントID、クライアントシークレット)を登録する。以下イメージ。

＜システムベンダーの登録内容＞



- これにより、「本番環境にいる事業者」から取得する情報を少なくすることができる。
(次頁詳細あり。)

- 以下のシステムベンダーが本番環境を利用する際には、以下のようにAPI呼出を行う。
- 現状は、すべての情報を本番環境にいる事業者に共有頂く必要があったが、一部情報のみの共有でよくなるため、情報共有の手間が省ける。

ステップ		必要な情報 (特に事業者ごとに異なる部分)	誰の情報か
1	認証① OpenID認証	• 利用者ID(メールアドレス) • パスワード • アプリケーションID	利用者IDとパスワードは「本番環境にいる事業者」 アプリケーションIDは「システムベンダー」
2	認証② クライアント認証	• クライアントID • クライアントシークレット	「システムベンダー」
3	API呼出 (取引作成、帳票更新など)	• 認証①②のトークン • 組織ID(organizationId) • 事業種別(businessTypeId)	「本番環境にいる事業者」

取得する必要がある情報は、本番環境にいる事業者がAPI利用「あり」と申請していなくても持っている情報のみになる。

